

【意見の概要とそれに対する市の考え方】

No	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	<p>地中熱とは、地面の中にある大地の熱です。この熱は、年間を通じて一定の温度であることから、ヒートポンプや熱交換器などと組み合わせ、熱エネルギーとして活用することができ、冷暖房・給湯・融雪・栽培ハウスなどの熱源として天候に左右されず、昼夜も問わず安定的な供給が出来、立地条件の制約が少ないことから身近で使いやすいエネルギー源として普及しています。</p> <p>しかし村上市民には、地中熱についての認知度・理解が知れ渡っていないのが現状と思われるので、村上市の公共建物等で普及促進を検討してはいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見いただきました地中熱につきましては、再生可能エネルギーポテンシャルはあるものの、地質や熱伝導率を把握するための調査コストや設備導入コストなど、他の再生可能エネルギーと比較し、高額となる課題があります。本計画におきましては、導入効果の高い、太陽光発電や木質バイオマス発電等の整備を優先して進め、国の補助事業や技術開発等を見据えながら、地中熱の導入について検討してまいります。</p> <p>なお、「7.1 再生可能エネルギーの最大限活用」に記載の道の駅朝日のエリア施設群については、地中熱を含めた再生可能エネルギー設備の導入を計画し、脱炭素を普及する情報発信拠点として整備を進め、再生可能エネルギーについての認知度と理解の向上に努めてまいります。</p>
2	<p>省エネルギー等、いわば「心がけ」だけでも一定の成果が得られるものは大いにSDGs理念のPRをするのがよいと思います。</p> <p>しかしながら、費用のかかる内容の政策を推進するには、理念のPRだけでは難しいと思います。企業や個人から見て経済合理性がなければ、一部の賛同者しか動かないのではないのでしょうか。</p> <p>したがって、推進したい政策について、採算性をよく吟味し、不足があるならばそれを補う策をどうするか現実的なレベルで検討しなければ実行しても成果が期待できないと思います。</p> <p>他の自治体の計画も同様なかもしれませんが、今回の計画ではそこまで踏み込んだ分析が伝わってこないのが残念というか、心配なことです。</p>	<p>費用のかかる再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入につきましては、市が実施する「太陽光発電システム設置費補助金」、「木質バイオマスストーブ設置費補助金」の活用や、国・県が実施する補助制度に関する情報を広く市民に提供することで、再生可能エネルギー・省エネルギーを推進していきたいと考えております。また、補助対象となっていない再生可能エネルギー・省エネルギー設備についても、必要に応じて支援策を検討・実施してまいります。</p>

3	<p>林業振興については、人手不足があらゆる産業でも問題になっている中でどのように人材を確保するのかまで、検討レベルを高める必要があると感じます。</p>	<p>本市の脱炭素化に向けた取り組みとして、森林資源循環ネットワーク検討会を立ち上げ、林業の素材生産事業者や製材所、木質バイオマス発電事業者などの関係者が集まり、素材生産量の向上や再造林、木材の販路拡大、チップ製造など様々な課題を解決するため、協議を進めています。その中で、林業の人手不足についても課題にあがっており、生産性向上に向けた様々な取り組みを検討しています。</p>
4	<p>運輸部門の省エネルギーには、本来は公共交通利用が望ましいのですが、人口減少の中で公共交通機関の利便性を確保するのは難しいと思います。</p>	<p>公共交通機関は複数の人が乗り合い、車両を効率的に運行するため、エネルギー消費量を削減できるという利点があります。</p> <p>一方で人口減少による利用者減少も課題となっています。引き続き人口減少をはじめ、高齢社会の進展など社会構造の変化に合わせた環境に優しい効率的な公共交通システムの構築を検討してまいります。</p>
5	<p>家庭部門の省エネルギーとして、暖房代が主ならば、それについてももう少し節約方法をPRしたらよいのではないのでしょうか。</p> <p>実際には、暖房以外に入浴・シャワーも大きなエネルギーを消費していると思います。家族の数が多いならば湯を沸かしても人数割すればそうでもないかもしれませんが、独居世帯で銘々が入浴のエネルギーを消費するのは効率が悪いといえます。とはいえ、衛生確保や血行促進から入浴そのものをやめるのはよくありません。</p> <p>提案としましては、独居の人が自分の家で入浴せず、公衆浴場で入浴するような施策をすればよいのではないかと思います。保健医療課で健康診断受診者に入浴補助券を渡しているだけでもその効果は大きいので、同様のことを省エネルギー目的で行えないのでしょうか？ 市内には瀬波地区、勝木地区、猿沢地区にそれぞれ公衆浴場があるので、利便性も悪くないのではないかと考えています。</p>	<p>ご意見のとおり、家庭部門の省エネ活動の推進として、節約方法のPRは非常に重要と考えております。市といたしましては、市ホームページや広報誌による周知のほか、環境フェスタ等の各種イベントや講習会、出前講座等を活用して環境意識の醸成に努めてまいります。また、ご提案の公衆浴場を活用した施策につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>